

第 55 回インナーゼミナール大会

研究計画書

ゼミ名	奥田ゼミ	チーム名	Smith&Dickies
タイトル	国富論について		
テーマ群	f) 歴史・思想		
メンバー	飯野碧、山崎桜、阪上光志、石原健太朗、宮永陽生		
研究計画内容	【研究背景】 アダム・スミスと聞くと『国富論』における「見えざる手」が有名であり、自由放任主義や市場の自動調整機能の提唱者として理解されることが多い。しかし、実際にはスミス自身が「見えざる手」という表現を頻繁に用いていたわけではなく、その思想の本質は単なる自由な市場の推奨ではない。本研究ではスミスの思想を単なる市場主義としてではなく、「人間性を基盤とした経済思想」として再評価し、自由市場がもたらす効果と限界を検討することを目的とする。 ※見えざる手 【研究内容】 本研究では、まずアダム・スミスの『国富論』を参照し、スミスの思想における「見えざる手」の位置付けを整理する。次に、自由な市場を完全に成立させた場合と、政府が財政政策や社会保障制度などを通じて一定の介入を行う場合とを比較し、それぞれの経済的特徴を明らかにする。また、これらの場合で考えられるそれぞれのメリットやデメリット、起こりうる問題などについて考察する。 【期待される効果】 本研究を通して、「見えざる手」を単なる市場の自動調整機構としてではなく、人間の倫理性や相互理解を前提とした社会秩序形成の原理として再解釈することが期待される。また、自由市場の利点と欠点を実証的に明らかにすることで、現代経済政策における市場と政府の最適なバランスを考察するてがかりを得ることができる。 【参考文献】 アダム・スミス『国富論』（大河内一男監訳、中公文庫、2020） アダム・スミス『道徳感情論』（水田洋訳、岩波文庫、2003） 『アダム・スミス哲学論文集』（水田洋ほか訳、名古屋大学出版会、1993）		